

令和元年度第1回逗子市地域福祉計画・逗子市地域福祉活動計画懇話会会議概要

日時 2019年（令和元年）6月19日（水）

午前10時00分から11時55分

場所 市庁舎5階 第3会議室

議題

1. 総合計画に掲げるリーディング事業（計画期間に取り組むべきことのうち、最も重要な事業）及び基幹計画に掲げる重点事業についての所管評価に対する意見の聴取
2. その他

出席者 22名（メンバー15名、アドバイザー1名、市職員4名、
市社会福祉協議会職員2名）

傍聴者 なし

意見概要

議題1. 総合計画に掲げるリーディング事業（計画期間に取り組むべきことのうち、最も重要な事業）及び基幹計画に掲げる重点事業についての所管評価に対する意見の聴取

●地域福祉推進事業について

（メンバー）

- ・福祉教育活動と避難行動要支援者の地域支援を同じ管理表で評価するのは難しい。

福祉教育活動の実施について

（アドバイザー）

- ・幅広い年代層に対し、福祉教育が実施され、多くの参加があったことは評価できる。
- ・逗子市は福祉教育が進んでいると言われるが、どのような点が他市町村と比べ進んでいるのかを具体的に示していく必要がある。

災害時要支援者の地域支援について

（アドバイザー）

- ・福祉部、防災安全課、社会福祉協議会など関連する他部局や機関との情報共有や横のつながりを意識して課題解決を期待する。

(メンバー)

- ・避難行動要支援者の個別支援プランの提出率の低さから、対象となる人にその趣旨が伝わっていない部分があるのではないかと思われる。アプローチ方法の工夫や、地域性に着目したそれぞれの対応策も考えていく必要がある。
- ・最大の防災は住民との助け合いである。私は地域で高齢者の一人暮らしの見守りを始めて7年近くなるが、少しずつ地域に関心を持つ人が多くなってきた。見守りをしているグループ、自治会、民生委員が活動の情報を共有するようになり、地域でもお互いさまという気持ちが浸透し信頼関係が築かれてきた。身近なところから積み重ねをしていくことが大切である。
- ・数字だけで評価するのはいかなものか。例えば、講座を10回開催した際、地域にどのような成果があったのかを評価したい。また、達成したことより達成できなかったことに目を向けて、次の方策を考えることが大切である。
- ・避難行動要支援者の未確認者がでてくるのはなぜかなど、評価するにおいて疑問が生じるので、資料で把握できるようにして報告してほしい。

懇話会が妥当と考える評価区分について「(b) 概ね順調であるとみなせる」で全員一致。

●生活困窮者自立支援事業について

(メンバー)

- ・対象となる人や世帯の問題は非常に多様かつ複雑であり、対応する職員の専門性と、個別ケースに十分な支援ができる体制の確保が重要である。その中で、就労支援などの成果があったことは高く評価できる。引き続き、充実した個別支援ができる体制の整備を期待する。
- ・具体的事例を交えての説明でイメージしやすい。これからも市、社会福祉協議会、関係機関が連携した対応が望まれる。

(アドバイザー)

- ・課題が複雑化していく中で、行政は市民に解決策を具体的に周知すること、市民は課題を発見する視点をもつこと・専門職につなげていくことが大切である。そのために計画があることを意識されたい。

(メンバー)

- ・市と社会福祉協議会の連携体制について聞きたい。

⇒ (市)

- ・市の関連する部署、社会福祉協議会と連携をとっている。計画の追補版にあるとおり、今後、対象者ごとの福祉サービスを縦割りから丸ごと支援するよう相談体制の整備を検討

している。

⇒（社会福祉協議会）

・市のあらゆる課と連携してバックアップを受けている。生活保護をはじめ、障がい者手帳、納税など。その他、鎌倉保健所、相談支援事業者、不動産会社、葬儀社、特別養護老人ホームなど関連機関とも連携し、協力いただいている。

懇話会が妥当と考える評価区分について「(b) 概ね順調であるとみなせる」で全員一致。

【議題1の総括意見】

（メンバー）

・今回評価したものについて、すべてが地域の中で自分らしく生き続けることにつながるものであり、行政の横のつながりはもちろん、社会福祉協議会、関係機関との連携を大切に課題解決されたい。

（アドバイザー）

・実際、計画や実行したことがどれだけ市民に浸透しているかを評価するのが本来この懇話会に求められていることではないか。今後、地域にどう浸透させ、表していくのかを工夫されたい。

計画を超えた連携についての意見

（メンバー）

・「我が事・丸ごと」「地域共生社会」と言われる中で、高齢、地域、教育、住宅など分野ごとにある社会資源をどう効果的に組み合わせ使っていきのかが課題である。生活困窮などは特にその必要性が見える事業であり、具体的なケースをもとにした計画間の連携を考えていく必要がある。

・地域福祉についての複雑な課題に取り組むためには、他部署との連携が必要である。

今年度、来年度に向けた意見

（メンバー）

・以前の懇話会で計画が市民に理解、受け入れられているとは言い難いと指摘があった。市民にとって、身近な計画として捉えられるよう、今後も啓発努力と推進を図ることを期待したい。

（アドバイザー）

・数字だけで評価するのはどうかという意見があった。行政の評価は数字が分かりやすい（アウトプット評価）が、地域福祉の評価で必要なのはアウトカムの評価である。地域でどのように浸透したかを具体的に示し、評価していくことが必要である。

次期計画に向けた意見

(メンバー)

・中高年の引きこもりの問題など新たな問題がクローズアップされている中、今後新たな施策の必要性を視野に入れること。「我が事・丸ごと」「地域共生社会」ということを軸に、生活困窮、地域包括ケアシステムなど、既存の施策や事業が、それぞれの分野を超えて、総合的な生活支援の仕組みづくりに向けてつながる必要がある。

議題 2. その他

●後期評価シートについて

・懇話会で評価するのは重要施策事業として上位計画でも進行管理を行うものであるが、計画にあるそれ重要施策事業以外の施策についても、進捗管理・評価するべきと従前から意見をいただいていた。今回、評価シート（案）を作成したので、ベクトルについて意見をいただきたい。今年度の秋には評価シートを完成させ、第2回懇話会ではこれをもとに評価を行っていただきたい。それまでに意見をいただく場合は、協力をお願いします。

●住民自治協議会との意見交換について

・7月19日（金）午前中、市内の住民自治協議会と懇話会の意見交換を予定している。後日通知するので、参加をお願いします。